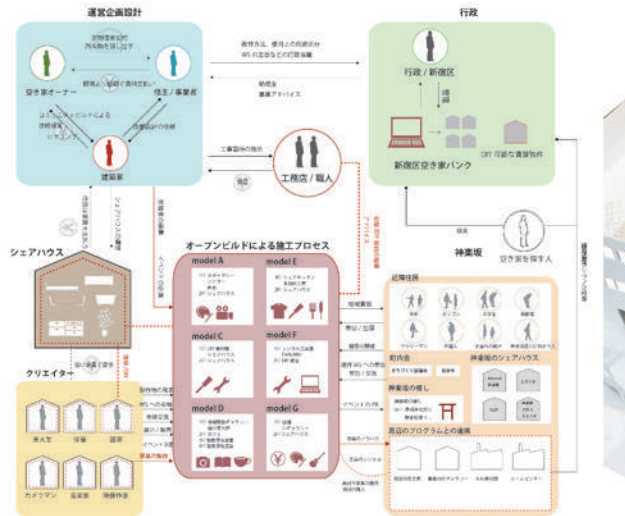


4-2. 裏路地の中規模開発による街並みの喪失  
 裏路地は建物の軒先が、シャッターなど文化的な側面を有している一方、木造密集地域が多く存在し、建物の老朽化と建物の狭さから更新が進まず、近頃失われる危険にさらされている。更新促進の観点から、近頃失われる危険にさらされている。更新促進の観点から、近頃失われる危険にさらされている。



4-7. プログラム 裏路地の空き家を起点としたものづくりネットワークの構築

町並みのヒヤリング調査やワークショップの体制を整える。新たな用途として神楽坂の裏路地で活動するクリエイターのための施設に開かれたシェアハウスを運営する。職人の取組として、ものづくりの文化が育んでいる神楽坂で、劇場や神楽の場、ギャラリーなど既存の文化と、新しく設けられるアーティストが共存できる場所として、ものづくりに関連する用途を計画し、住居に施設を併設して活用してもらう。空き家チームと神楽坂の地元民と協働する空き家チームを起ち上げての構築することで、ヒト（地域民/クリエイター）、モノ（資材の活用）コト（神楽坂のイベントとの連携）がものづくりを通じ連携する仕組みづくりを行う。ものづくりに関連したプログラムを対称的かつ協働的形態で、空間性をもとに展開していく。



4-5. 具体的なヒヤリング調査の実施と人物像調査

対象とする敷地の活用方法の検討として、神楽坂に住む人々や賃貸オーナー、空き家を持て余している個人、地域住民、周囲の大学に通う学生などさまざまな空き家となったmodel Aにてヒヤリング調査を行った。人間関係や地域性、集まる住居上の合致や思い込みなど敷地がもたらす地域性を具体的に把握した。神楽坂の裏路地には神楽坂の街並みを残そうという意識を持った地域住民や、新しい空き家やテナントを活用しているクリエイターが活動している。シェアハウスに在住する人々の一部として無断でプログラムに参画する。



4-6. 実際の設計施工で感じたものづくりを通じた地域コミュニティの形成

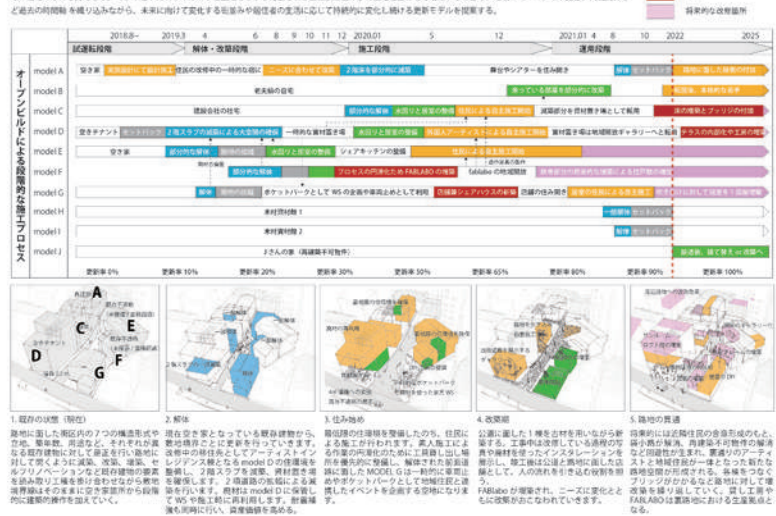
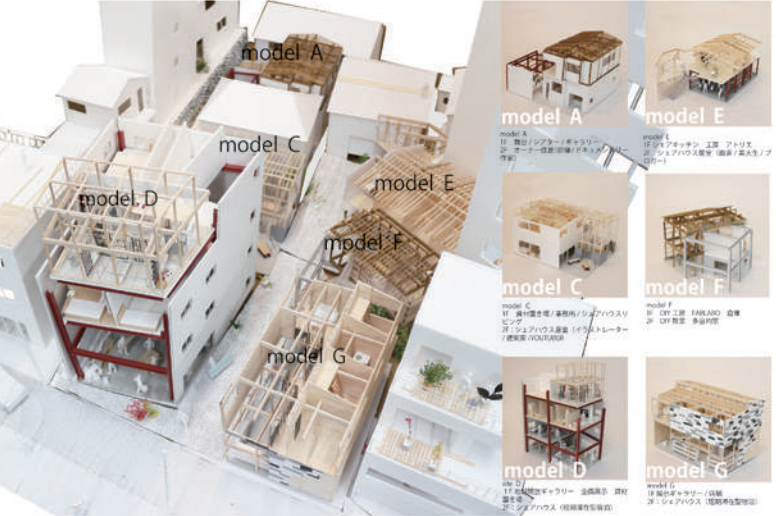
対象とする敷地のmodel Aの1階部分をセルリアリゼーションを行う機会を得た。建物方法の検討や、地域住民や周辺大学に通う学生を巻き込むイベントを企画するなど積極的な調査を行った。小規模な活動だが、施工プロセスの中で近隣に住む専業主婦のマスターが遊びに来たり、近くのシェアハウスの住民が手伝いに来て、駐輪場を貸してくれたりmodel Dのテナントオーナーが認知症になり、地域の材料を買ったり、DIY作業中にインスピレーションを得たりするなど、ものづくりを通じて人間関係の構築していく過程を身体で感じた。慣れも改善工事を通じて



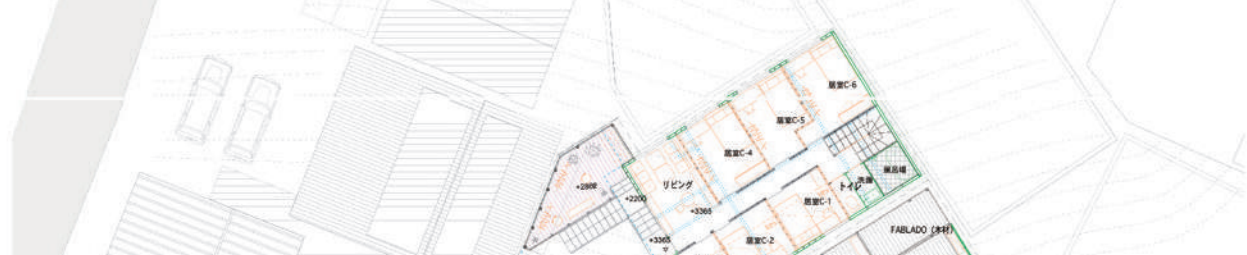
4-8. 施工と居住者のアクティビティを一体的に計画する工程表

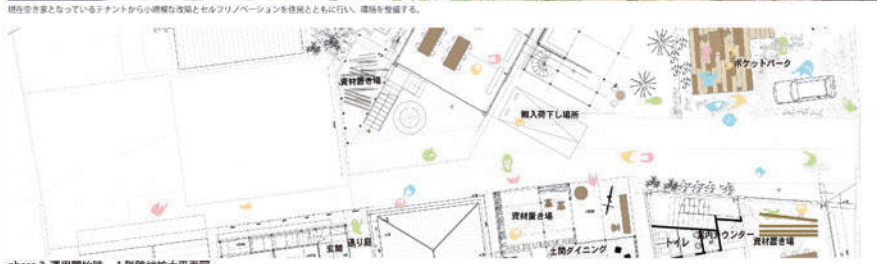
裏路地の空き家改修と建物の設計施工を一体的に行う更新計画を行う。現在空き家となっている建物から暮らす、敷地に開かれた裏路地の形式や空地、集客場、商店など、様々な用途や活動に対して周辺地域の住民や学生から関わりを持ってもらう。職人の取組として、ものづくりの文化が育んでいる神楽坂で、劇場や神楽の場、ギャラリーなど既存の文化と、新しく設けられるアーティストが共存できる場所として、ものづくりに関連する用途を計画し、住居に施設を併設して活用してもらう。空き家チームと神楽坂の地元民と協働する空き家チームを起ち上げての構築することで、ヒト（地域民/クリエイター）、モノ（資材の活用）コト（神楽坂のイベントとの連携）がものづくりを通じ連携する仕組みづくりを行う。ものづくりに関連したプログラムを対称的かつ協働的形態で、空間性をもとに展開していく。

試運転期間	解体・改築期間	施工期間	運用期間
2018.8 - 2019.4	2019.4 - 2020.1	2020.1 - 2020.12	2020.12 - 2025
model A	解体・改築	施工	運用
model B	解体・改築	施工	運用
model C	解体・改築	施工	運用
model D	解体・改築	施工	運用
model E	解体・改築	施工	運用
model F	解体・改築	施工	運用
model G	解体・改築	施工	運用
model H	解体・改築	施工	運用
model I	解体・改築	施工	運用
model J	解体・改築	施工	運用



phase 2 - 運用開始時 -

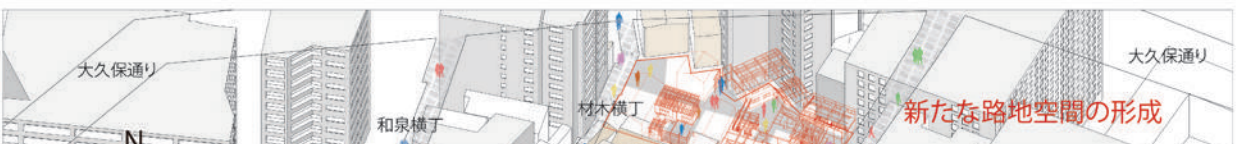
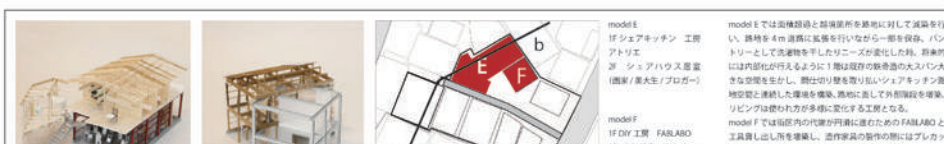
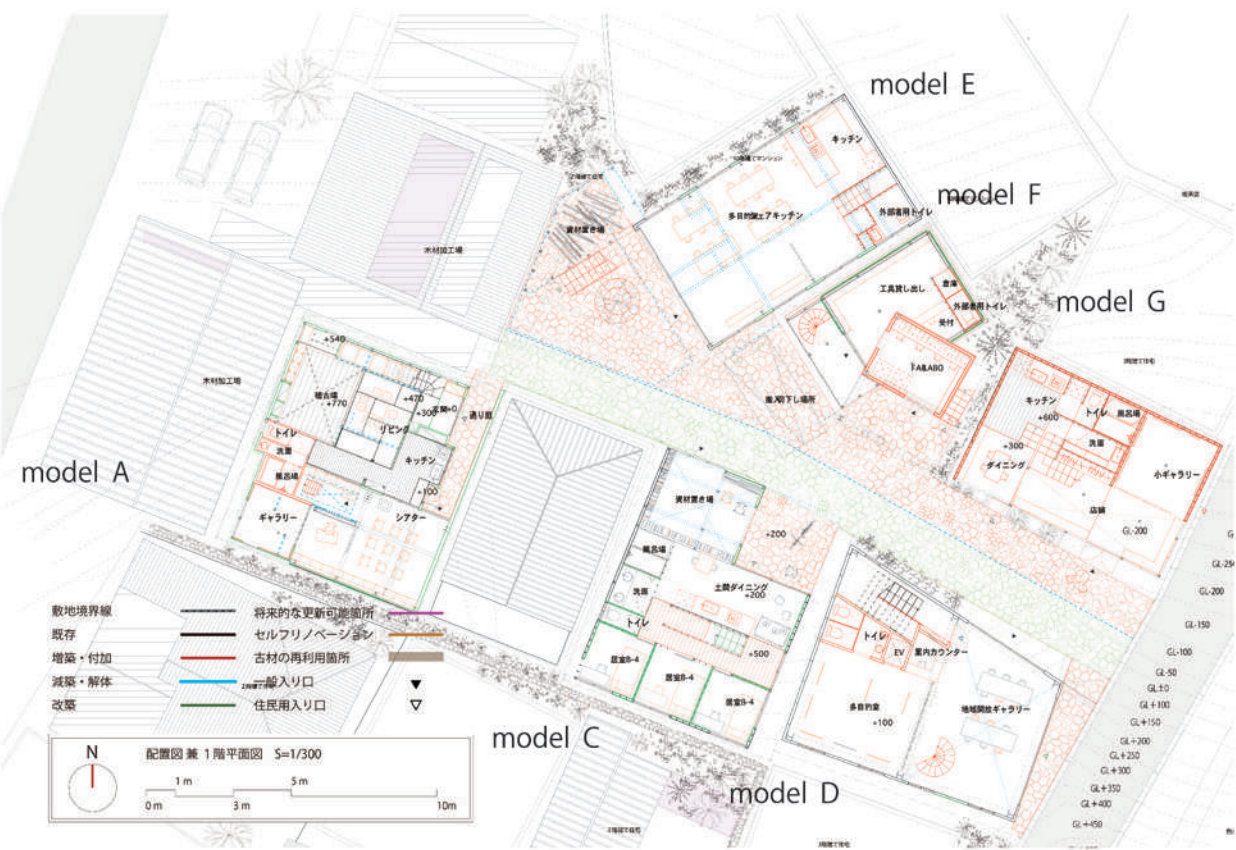


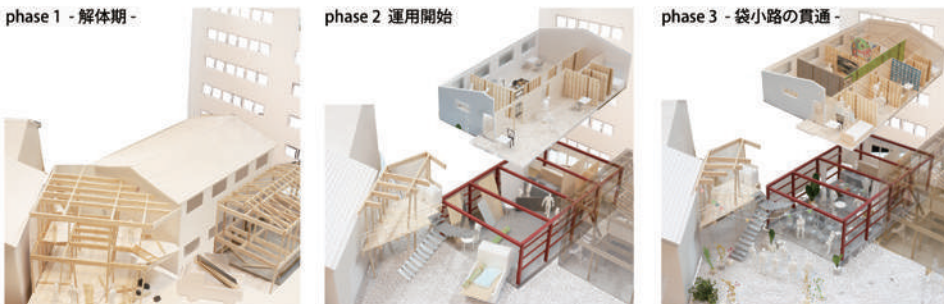


model Fには自作家具やDIYの内装化を図るファブrikの構築され、路地に面して部分的に減築された。model Cは路地に面しを主に。

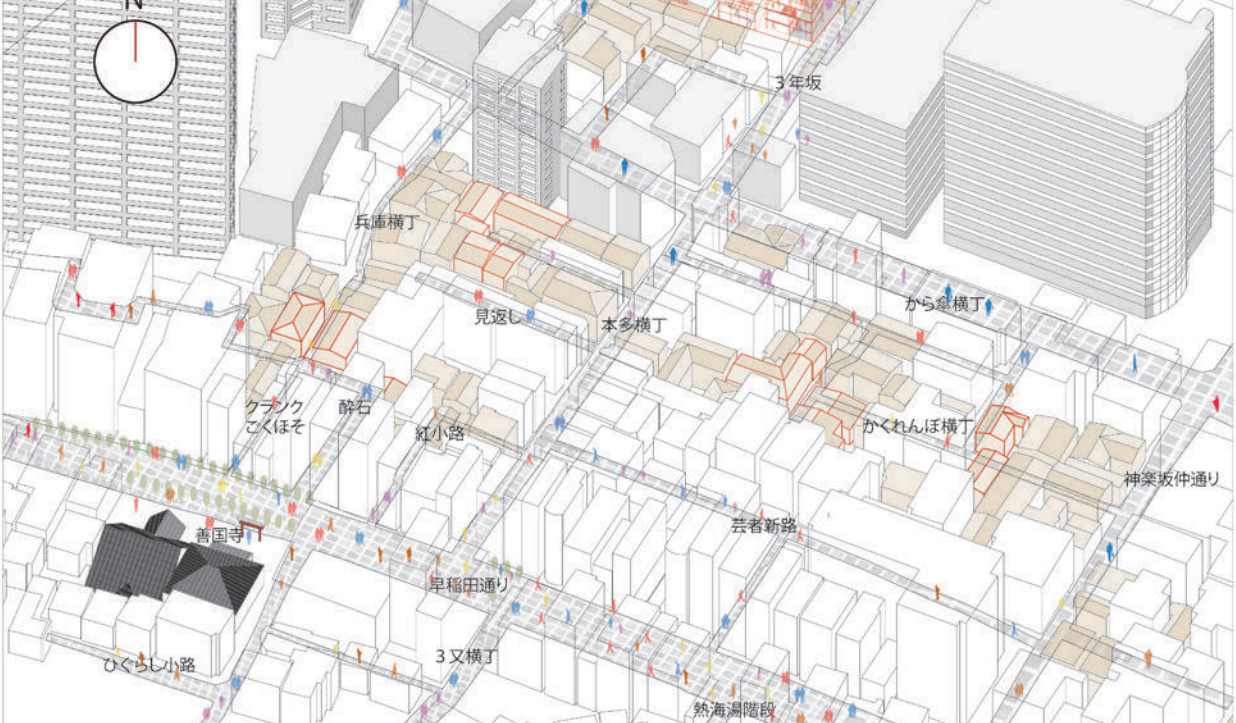
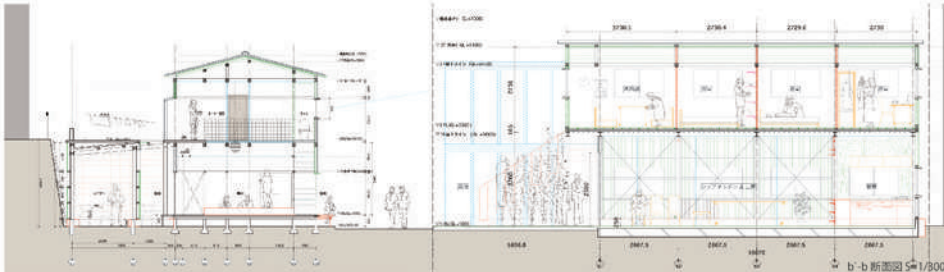


仮設が解消され、富路地のクリエイターと地域住民が一体となった新たな路地空間が形成される。





model Eの既存建物は築年数20年、5年前までかつて建築職人の工房兼自宅として使用されており、死去後空き家となっている。1階が鉄骨造、2階が木造の構造形式。壊された木造家屋が高地に面して崩壊している。ここにシェアキッチンを集めた工務店とアーティスト画家と俳優のための5住戸のシェアハウスを想定する。



**5-1. 結論**  
 筆者のセルフリノベーションの経験から、ものづくりの可能性とその潜在的ニーズの高さを感じ、今後の建築家の職能の拡張と新しい木密地域の更新手法の一助になればとの思いで修士設計のテーマを「オープン・ビルド」と位置づけた。  
 更新の進まない神楽坂路地裏の木密地域を対象に、調査から得られた知見を応じた空き家改修と路地の拡幅計画を一体的に行う更新計画をケーススタディに段階的な施工プロセスを用いて提案をハードとソフトの両面から構築することで、有用な木密地域の更新手法を示した。

**5-2. 参考文献**

- 1) 住み手から見たセルフリノベーションの特性と、賃貸物件向けにおけるセルフリノベーションの課題。大阪府立大学大学院修士課程修士論文(建築学) 2016年度 16年度 16年度
- 2) 木造住宅の建築費の削減に関する調査報告書について。建築業の発展と、平成27年度国土交通省 住宅政策推進部 調査報告書 2015年2月、2015年1月
- 3) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 4) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 5) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 6) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 7) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 8) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 9) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 10) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 11) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 12) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 13) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 14) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 15) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 16) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 17) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 18) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 19) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 20) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 21) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 22) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 23) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 24) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 25) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 26) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 27) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 28) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 29) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 30) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 31) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 32) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 33) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 34) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 35) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 36) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 37) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 38) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 39) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 40) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 41) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 42) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 43) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 44) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 45) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 46) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 47) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 48) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 49) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 50) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 51) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 52) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 53) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 54) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 55) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 56) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 57) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 58) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 59) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 60) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 61) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 62) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 63) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 64) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 65) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 66) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 67) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 68) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 69) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 70) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 71) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 72) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 73) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 74) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 75) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 76) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 77) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 78) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 79) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 80) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 81) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 82) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 83) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 84) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 85) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 86) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 87) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 88) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 89) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 90) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 91) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 92) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 93) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 94) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 95) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 96) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 97) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 98) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 99) 住居政策 2013年2月、2015年1月
- 100) 住居政策 2013年2月、2015年1月



model D 改修中に資材置き場になっていた吹き抜け空間は竣工後、通りに面した地域開放ギャラリーになる

model C 調査により生まれた軒下の設け置き場は近所の人がDIYの材料を選びに来る

model A 4方を囲まれている用い空間を生かし、映像作家の作品を上映する高地表のシアターや舞台になる

model E 既存建物の一部壊滅によって生まれた空間は神楽坂のイベントを行える一体的な大きな広場になる

model F シェアハウスに住む住民が造作家具やDIYを行う際に工具を借りることが出来るFARLABOは、地域住民も2階のDIY教室にノウハウを学びに来る。

model G 拡張した路地に面した段々上の店舗は、アーティストの制作物を展示販売する。2階の共有部と吹き抜けを介して繋がる。

もともとの路地の構造を残しながら4m道路に拡張した路地の入り口は、ものづくりの過程を街に露出させる。店舗とギャラリーに挟まれた神楽坂通りと連続した空間となる。